

みんなで楽しく
作ってます！



人のつながりから 昔のような活気を

—中多久マーケット—



よねみつ まさ ゆき

米満 正幸さん

中多久マーケット代表



唐

津線・中多久駅から北へ2000メートルほどの、住宅街の中に昭和レトロな雰囲気を感じられる一角が残っています。この場所こそ、50年以上の歴史がある中多久マーケット。昭和20年代から30年代にかけて、市が炭鉱で栄えたときは大いに賑わっていました。しかし時がすぎ、昔ほどの活気がなくなった現在「以前のよう盛りに上りをふたたび！」と立ち上がったのが中多久マーケット組合長の米満正幸さん。流しそうめん、ハロウィン、魚の解体ショーなど、定期的に（現在は2か月に1回）趣向を凝らしたイベントを企画し、フェイスブックなどで参加者を呼びかけています。

ちようごこの日は「手づくりギョウザ」のイベント当日。あたりには食欲をそそる、旨みと香ばしさが漂います。男性たちはお酒を片手にギョウザをほおぼり、女性たちは楽しいおしゃべり、そして子どもたちは走りまわって鬼ごっこ。それぞれの楽しみ方でイベントを満喫していました。

「このようなイベントを通して、まず中多久マーケットを知ってもらいたいな」と思っています。「こんなお店があるんだ」と知ってもらうことで、買物に足を運んでくださるお客さんもうらっしゃると思いますしね」と米満さん。魚・肉・野菜・お好み焼き・お弁当・ホットドッグなど食に関するお店から、美容室・1000円ショップ・宅急便など、中多久マーケットは現在10店舗ほどあり、米満さんも「米満鮮魚店」の店主。米満さんが店を継いだ15年前は、マーケットに4店舗しかなかったそうです。それが1店舗ずつシャッターが開き、少しずつですが以前の活気を取り戻しています。